

1 火災統計



京都市内の年間火災件数は、昭和 30 年の 756 件をピークに 20 年連続して減少し、昭和 50 年以降は 220 件前後で推移していました。平成に入り、放火火災の多発などにより火災は急激に増加し、毎年 300 件を超える火災が発生していましたが、平成 15 年に減少に転じ、平成 22 年の火災件数は過去最少の 170 件でした。

主な火災原因は、放火（疑い含む。）が昭和 51 年以降毎年トップとなっているほか、たばこ、天ぷらなべ、こんろ、コードが毎年上位を占めています。

火災による死者の約 7 割が高齢者であり、原因別では、たばこ火災による死者が高い率を占めています。

2 火災防止対策



[放火火災] 『放火防止五箇条』を実践しましょう。

- ・家の周りには、燃えやすい物を置かないようにしましょう。
- ・夜間、建物の周囲や駐車場は、照明を点灯して明るくしましょう。
- ・空き家、物置には鍵を掛けましょう。
- ・車やバイクなどのボディカバーは、燃えにくい物を使いましょう。
- ・地域ぐるみで放火防止に取り組みましょう



[たばこ火災]

- ・「寝たばこはしない、させない」を徹底する。
- ・歩きたばこはしない。
- ・吸い殻は必ず灰皿に捨てる。
- ・灰皿に水を入れておく。
- ・灰皿に吸い殻をためすぎない。



[天ぷらなべ火災]

- ・調理中にキッチンを離れるときは、必ず火を消す。
- ・こんろの周りに燃えやすい物を置かない。
- ・こんろやその周囲はいつも清掃しておく。

[電気火災]

- ・電気器具は使用上の注意をよく読んでから使う。
- ・電気コードはカーペットや家具の下敷きにしない。
- ・たこ足配線はしない。
- ・コンセント周りにほこりをためない。
- ・使わない器具はコンセントからプラグを抜く。
- ・プラグ、コードなどの表面が過熱しているときは、プラグをコンセントから抜き、専門家に点検を依頼する。

